何かしたい

本郷　生田　朋子

昨年の三月は、私にとっても試練の月でした。大変お世話になった財産区の議員さんが相次いで三人も逝去。それだけではない。尊敬する職場の先輩まで帰らぬ人となってしまった。夢であって欲しいと何度も願った。

そんな折の大震災。「何かしなければ…」と考えていたところ、町と社協募集の「災害ボラバスパック」の記事が目に止まった。早速申し込んだ。場所は岩手県釜石市の北、大槌町。市街地はほぼ壊滅状態。町長さんはじめ七百人を超える人が死亡した町である。

東北自動車道を北上、走っても走っても、穏やかな山紫水明の風景が続く。しかし海辺に近づいたとたん、風景は一転し、津波の爪あとが生々しく、想像を絶する被害状況に驚いた。

現場に着くと、家は流されておらず、天井近くまで海水に浸かった建物は、すでに修復され、住んでいる家が何軒かあった。作業は、草を取り津波により運ばれた海の泥を削り取り、土嚢に詰めること。また砕石を運び、敷きつめたり、ペンキ塗りもしたりした。前日の雨で海の泥は重く、湿気と暑さでムンムンしていた。

外観だけ見ると被害にあったようには見えなかった家が、中に入って見ると、床や内壁がはげたままになっていた。「ご夫婦とも助かってよかったですね」と言葉をかけると「目の前で人が流れていくのを見て…」と声を詰まらせた。命や物が無事であれば良いという、軽率な考えでいた自分が恥ずかしかった。泥に塗られたガラス戸の掃除をし、次の家に向かった。

広い庭には津波で流されてきたガラス戸、犬小屋、回覧板の入ったままのポスト、材木等が積み重なっていた。家の周りに植えられたサツキも、塩害ですっかり枯れており、片付けて石灰をまいた。その家のご主人も汗だくになって、私達と一緒に堆積した海泥を剥ぎ取り土嚢詰めをした。玄関前の花を見て、「きれいですね」と声をかけると「この花には元気をもらいました。一旦枯れたのに復活したんですよ」と顔をほころばせ嬉しそうに話してくれた。

最後に「ありがとうございました。十年後もう一度町を見に来てください」と言われた。涙を堪えての日焼けした顔が忘れられない。

災害ボランティアの仲間と

ボランティア一人一人動機は違っても、皆熱い思いを持ち、チームワークを保ちながら、労を惜しまず汗して作業する姿から、多くの事を学ばせてもらった。

■諏訪湖博物館の２月の休館日は、６・13・14・20・27日です。

改めて 地元を守る思いを強く

東鷹野町　早出　和史

私は、三月十八日から二十五日までの一週間、宮城県石巻市住吉中学校の避難所で、負傷者の救護所への担架による搬送や、救護所の案内及び炊き出しなどの活動をしました。その活動の中で印象に残ったことがありました。

活動日四日目でした。朝から石巻市内の救護所で、案内や負傷者の搬送をしていると、小学生の男の子とその祖父と近所の方が、男の子のお母さんを捜していました。震災の日、お母さんは市内のスーパーでパートをしており、連絡が取れなくなり、祖父が被災した自宅付近で夜通し待っていたそうです。一緒にパート先のスーパーへ行って周辺を捜索しましたが、そのスーパーも津波の被害でめちゃめちゃになっていました。周辺を捜索してから一時間後、スーパーから一キロくらい離れたガード下でお母さんの車を発見しました。大破した車両が折り重なり、がれきや汚泥で埋まっていました。祖父と一緒に車内を確認したところ、亡くなっているお母さんを確認しました。「なぜ車じゃなくて走って逃げなかったんだ」と泣きながら、車を抱きしめる祖父の姿を見て、私も涙が止まりませんでした。

車も がれきの中に

その後関係機関へ通報し、遺体安置所へ向かう車両を見送りました。「お母さんを一緒に捜してくれて、毛布をかけてくれてありがとう」男の子が泣きながら話してくれた姿と言葉が、私は一生忘れられません。

八月十日から十四日まで、二回目の石巻市へ行きました。ボランティアの方によって花壇が整備されて花が咲いており、通行止めになっていた道も整備されていて車が通っている一方、半年が過ぎても、依然として手を着けていない所もあって、まだまだボランティアによる支援活動が必要だと痛感しました。被災地へ行かれる限り、ボランティア活動をしたいと思います。

そのほかに、四月二十二日より二日間、岩手県大槌町でボランティア活動をして来ました。大々口地区にある幼稚園で、汚泥とがれきの撤去作業をしていました。途中で、園長先生と二人の先生が来てくださいました。この園でも二名の園児が亡くなり、園長のご両親も未だ行方不明との話をお聞きしました。でも園長は、「一番に、この園にもう一度、子どもたちの笑顔と笑い声が帰って来ることを願いがんばります」と力強く話してくださいました。

がれきを片付ける

また、七月と九月に三回活動させていただきました。これらの経験の中で、下諏訪消防団として、地元を守る思いを改めて強くもちました。

■文化センターホール・体育館の２月の休館日は、７・14・21・28日です。

生涯学習
No.453
かおり高い 文化のまち
発行 下諏訪町教育委員会
編集 生涯学習 編集委員会
〒393-8501
長野県諏訪郡下諏訪町4611-40
(下諏訪総合文化センター内)
☎ 0266-27-1111(内線718)
FAX 0266-28-0131
E-mail=syougai@town.shimosuwa.lg.jp